

平成27年度 八洲学園大学国際高等学校事業計画書

1. 施設の概要

(1) 所在地

学校名	所有区分	郵便番号	学校(会場)所在地	電話番号	FAX番号
八洲学園大学国際高等学校	法人所有	905-0207	沖縄県国頭郡本部町備瀬1249	0980-51-7711	0980-48-4115

2. 学生(生徒)の概要

(1) 設置課程・学科・収容定員・在籍者数一覧(平成27年3月1日現在)

設置課程	設置学科	入学定員 (人)	①収容定員 (人)	②正科生 在籍者数 (人)	③技能連携 在籍者数 (人)	④聴講生数 (人)	収容率 (%) $(②+③) \div ① \times 100$
通信制課程 (広域)	普通科	—	5000	1288	0	6	24.8

(2) 平成27年度入学者数・卒業者数・転学者数・退学者数・除籍者数予測一覧

	入学者数 (途中転編含む)	卒業者数	転学者数	退学者数	除籍者数	増加予測人数
正科生	550	400	10	5	60	75
聴講生	100					

3. 教職員関係

(1) 平成27年度管理職の概要

職名	氏名	備考
校長	和田 公人	新任（再任）
教頭	中村 成希	留任

(2) 平成26年度教職員の概要（平成27年3月1日現在）

			合計（人）	沖縄	横浜	東京	大阪
教員	本務		男性（9） 女性（8）	11	1	3	2
	非常勤		男性（2） 女性（5）	6	0	0	0
職員	本務		男性（2） 女性（0）	2	0	0	0
	兼務		男性（1） 女性（5）	4	2	0	0

八洲学園大学国際高等学校の平均年齢は教員 38.2 才、職員 37.8 才である。（平成27年3月1日現在）

4. 事業の概要

(1) 事業の概要

① 主な事業の計画

年度	事項	概要	進捗状況
25～	「高校卒業+αコース」の充実	入学検討者にとっての当校の魅力を高めるとともに、在校生へのキャリアプラン構築支援のため、さまざまな資格取得やスキル獲得のための格安な学習選択を提供する。	平成26年度は、「高校卒業+αコース」に「台湾の大学進学コース」を設置した。平成27年度は、「資格の取得コース」を設置するとともに、海外留学・ホームステイの内容のコースを設置する。
26～	生徒増に対応した体制整備	平成22年度からの一貫した生徒増、とりわけ平成26年度からの入学者急増対応するための、短期スクーリングの構成や回数の再整備を行う。	平成26年度は短期集中スクーリングの年間実施回数を年13回から17回に増加させるとともに5泊6日化を実現した。平成27年度は、時間割構成や年間スケジュールを工夫しながら年間19回の実施を行う。
25～27	eラーニングコンテンツの刷新	平成25年度1年次から移行の新学習指導要領に対応したeラーニングコンテンツの開発・制作とスマートフォンなどの新メディア利用を進め、学籍管理料の増収を目指す。	平成27年度の新学習指導要領移行完成年度として、すべての対象科目のスマートフォンでの視聴可能なeラーニングコンテンツの制作を完了した。
23～27	レポート内容の改善	平成24年度に引き続き、平成25年度から移行の新学習指導要領準拠の教科書に即して全面改訂または新規開発する。特に理数系教科書の難易度増をレポート側で平易化の工夫をして、生徒のいっそうの学習理解をはかる。	平成27年度の新学習指導要領移行完成年度として、すべての対象科目のレポート制作または刷新した。

24～27	スマートフォン・携帯電話を活用したレポート補助教材の開発	レポート提出率、合格率の向上、FAQ問合わせ対応の効率化を目的とし、すべてのレポート教材にQRコードを掲示し、情報端末か話らアクセスできるWEB上の補助教材を整備する。	平成27年度は、完成年度として、すべてのレポート教材へのQRコード掲載と対応する携帯端末用WEBコンテンツの制作・運用整備を完了した
23～27	新学習指導要領及び移行措置に伴う指導計画方針の策定	平成24年度からの先行実施及び平成25年度から導入される新学習指導要領に沿った教科ごとの指導計画を作成する。一般生の半数以上が転編入生であるので、新カリ・現行カリを平行で進める期間の短縮と効率的な履修指導・スクーリング計画により、スクーリングコストや生徒さんの負担を減少させることを主眼とする。	平成27年度完成年度として、新学習指導要領移行による旧指導要領科目の閉講の進行に対応した、旧学習指導要で学んだ転編入生受け入れのための読み替え・新学習指導要領科目での履修移行パターンマニュアルを完了させる。
22～	自己点検評価の作成	学務・校務の業務全般を自己点検し、新しい事業へのチャレンジと具体的な目標の設定を行なうことで、組織の活性を維持・発展させるとともに、外部へ公表することで保護者や入学検討者への学校の信頼度や魅力を向上させる。	平成27年度自己点検結果を学校HP上で公開する。また、自己点検評価概要を学校情報誌「ゆんたく」紙上で案内する。
22～	高大連携の具体化	高校と大学の連携・接続を深めることで、内部進学者をいっそう増やすと共に、大学のある学園の高校として入学見当者からの魅力向上をはかる。具体的には大学の講義の高校生受講、大学教官の講演などの交流活動と、大学パンフレットの高校での配布や校内情報誌「ゆんたく」での大学記事掲載、不登校児への高校教育活動を大学講義のなかで紹介するなどの事業を実施する。	平成26年度は高校訪問活動での大学パンフの積極的配布、高校の地域支援活動であるひきこもり支援活動への大学教官の派遣（年4回）や大学の教員免許更新講習試験会場の設置を行なった。平成27年は、平成26年度までの活動に加えて、大学講義の中での高校での「前籍校不登校生徒への教育活動の紹介」など双方向の交流を深めてゆく。

23～	進路指導の強化と進路捕捉率の向上	生徒の集中スクーリング参加、職員室来室の機会を有効に生かして、キャリア教育・進路指導を行うとともに、外部の合同企業説明会・就活イベントに学校として積極参加し、就職機会の拡大をはかる。	平成26年度は、沖縄県内指定校推薦制度のある進学先すべての開拓に加え、関東・中部・関西を中心に新規開拓・拡充し全国394校とした。平成27年度についても、生徒数の多い地域での施行推薦の新規開拓を図ってゆく。
22～	高認試験希望者への対応強化	聴講生（高認試験希望者）向けのパンフレット作成・配布、学校WEBサイトでの高認試験情報ページの追加、高認向け資料請求フォームの追加を実施して高認受験希望者への当校の周知をはかり、あわせて聴講生に対応したスクーリング時間割など、学校の魅力向上をはかる。	平成24年度より広報ツールやWEBサイトのページ設置及び認知拡大を図った。平成27年度は、1回の参加で修得しうる科目数を時間割の工夫で拡大し、志願者にとっての魅力を上向きさせる。
22～	地域貢献・地域交流	地域海外の清掃ボランティア活動、地域の恒例行事となった少年サッカー大会を主催し、地域貢献・地域交流を通して学校の知名度と好感度を浸透させる。地元教育委員会及び商工会の賛同・協賛も頂いている。 「一般社団法人ひきこもり支援相談士認定協議会 沖縄支部」に加盟し、地域のひきこもり支援者普及とスキルアップに貢献することで学校の知名度向上と入学見当者との遭遇機会向上をはかる。	学校近隣の清掃や地域行事への参加、そして本学主催の地元チームのサッカー大会は地元から高い評価を頂いている。平成27年度も引き続き地域活動・参加を継続する。 外部講師を招いて「ひきこもり支援」に関する講演会&勉強会を実施する。
22～	WEBプロモーションの展開	募集年齢層が集まるソーシャル系メディア全般への広報展開を行ない、学校の認知度向上・生徒募集増をはかる。	平成27年度より、学校WEBサイト管理を株式会社イノーヴインタラクティブに移管し、きめ細かいログ分析をもとにサイトビューおよび資料請求数の一層の増加を図る。

22～	技能連携校・サポート校の開拓と支援	技能連携校・小規模塾や高等専修学校などのサポート校開拓とサポート校の募集支援・連携した広報活動などの支援活動を通じて、生徒募集のチャンネル増を維持・拡大させる。	平成27年度は、平成26年度までに各地に開拓したサポート校の支援と、ひきつづき県内外のサポート校新規開拓を行なう。
23～	広報ディスプレイの更新	沖縄県内において、生徒募集効果の高い生徒募集バス車体広告及びテレビCMを更新出稿していっそうの認知度向上・生徒募集増をはかる。	平成26年度は、沖縄県内を対象にテレビCM年度間120本、新聞広告を2紙×12本などの広報展開を行った。平成27年度についても、新規進出の通信制高校に対抗するため、機動的かつきめ細かい広報展開を行う。
23～	生徒の問題行動の未然防止	本校での生徒指導のあり方を見つめ直し、生徒対応の方法・学校ルールのアナウンスを再考慮して問題行動の未然の防止に努める。担任と生徒指導部だけでなく、全教職員での確認や研修、マニュアル整備を通して、学校力として生徒対応に当たる。	平成26年度は、生徒さん向け問題行動確認試験を実施し、問題行動の未然防止の深化をはかった。平成27年度は、生徒数・短期集中スクーリング回数も増えるので、生徒さんへの普段の働きかけと生徒さん向け問題行動確認試験をさらに強化し、問題行動の芽の段階での予防的措置を徹底させる。

② 施設・設備の整備計画

年 度	事 項	事業規模等	事業費	財 源	実施時期	備 考
22～	校舎宿舎の修繕 (宿舎壁、各棟エアコン修理、セキュリティシステムの改修、宿舎手摺のサビ止め、宿舎ベッドの修繕、シャワー部品改修など) 平成26年度は、築15年の校舎更新の一環として教室棟教室・宿泊棟宿泊室・職員室棟校長室および自習室の床張り補修・更新工事を実施した。 平成27年度は、築15年の校舎更新の一環として、職員室棟職員室・各棟トイレの床補修および食堂棟の床張り補修・更新を行う。	中規模	5,000,000	管理修繕費	平成27年度前期の生徒募集状況を見ながらおこなう。	
22～	PC、PC周辺機、印刷機などの設置。	小規模	500,000	備品補充費	平成27年度までに旧OS機の更新を完了する。	

③ 授業料変更等

年 度	事 項	概 要
27	計画なし	

④ 卒業者数、就業者数の見込みについて

平成27年度は、26年度ベースで見積もった結果、約400名の卒業者数を見込んでいる。
学校把握新規就業者数は、26年度ベースで見積もった結果、約15名を見込んでいる。

⑤ 生徒の就職、進学状況について

進学では、医学・看護・福祉系への志願者増や芸術系大学志願など、高等教育への進学意欲がいよいよ高まっている。

沖縄県内指定校推薦制度のある進学先すべての開拓に加え、関東・中部関西を中心に新規開拓・拡充し全国394校とした。

⑥ 教職員採用・退職計画

年 度	事 項	概 要
26	採用者（教職員7名、パート1名） 退職者（教職員5名、パート1名）	
27	教職員採用（任期付教員3名（うち1名は校長代理として）、常勤講師3名）	任期制教員（有期20名、うち1名は校長代理として）、 常勤講師（有期5名）、非常勤講師（有期6名）、常勤職員（有期2名）、 非常勤職員（有期5名）

5. 財務の概要

平成22年度より入学者数が増加基調となり、平成26年度入学者数はサポート校開拓により格段に増加（182%）した。平成27年度についても、サポート校からの新入生増が期待できるので、昨年度並みの2～4%の収入増を最低目標と掲げ、安定した財務状況を確保したい。

支出については、年度間で2度の台風襲来による施設や物品の被害を被ったが、保険により修繕費用の大半をカバーできた。平成24年度から先行実施された新学習指導要領による科目増・授業開講増と近年の一貫した生徒数の急増により、教材費、教職員人件費が上昇した。なお、平成26年度より隣接市に株式会社立高等学校が開校し、沖縄中部へも通信制校区新設の動きがあるので、収入増の一部を沖縄県内広報費に充て、沖縄県内の募集基盤を更に固めることとした。

また、開学から築15年の校舎の腐食進行、水回りの故障、ひび等が目立ち始めており、安全を確保するためにも平成25年度より校舎修繕工事を着手している。平成27年度は、校舎更新の一環として、（平成27年度前期の生徒募集状況を見ながら）職員室棟職員室・各棟トイレの床補修および食堂棟の床張り更新を行う。